

## ISO/TC 68 国内委員会総会 議事録<sup>1</sup>

日 時：2025年12月18日（木）13：00～16：45  
場 所：日本銀行本店（ハイブリッド形式：対面／Cisco Webex 会議）  
出席者：ISO/TC 68 国内委員会 松本委員長・委員・リエゾン・事務局  
日本銀行 武田決済機構局長、小島参事役 ほか

- 2025年12月18日開催の「ISO/TC 68 国内委員会総会」は、ハイブリッド形式で開催<sup>2</sup>した。議事の模様は、以下のとおり（詳細は当日配付資料を一部抜粋した別添資料を参照）。

### 開会挨拶

ISO/TC 68 国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授、日本銀行決済機構局の武田局長が開会挨拶を行った。

—— 松本委員長は、「本日は大勢の方々に出席いただき、御礼を申し上げる。また、今回の総会でも、委員方・事務局が協力し、総会資料を作成いただいたことに感謝を申し上げます。最近、特に現行暗号の耐量子計算機暗号（PQC）への移行の問題の観点で、ブロックチェーンの継続的な信用性や、産業用のデータスペースの国際連携の話など、議論が活発になってきている。決済分野もこうした影響を受けるため、国際標準化に係る活動が非常に重要になってきている。ISO/TC 68 国内委員会総会は、リエゾンの各委員会の皆様にも出席いただき、各委員会の活動状況に関して情報共有いただくなど、大変良好な連携を図っていただいている。本日も引き続き忌憚のない意見をいただき、活発な報告・議論ができるよう進めていきたい」と述べた。

<sup>1</sup> ISO（International Organization for Standardization：国際標準化機構）/ TC 68（Technical Committee 68：金融サービス専門委員会）は、金融業務に利用される情報通信技術や情報セキュリティ技術等の国際標準化を担当している。ISO/TC 68 国内委員会は、ISO/TC 68 所管の金融サービス分野における国際標準化について国内での審議および情報共有等を行うことを目的とし、本委員会の総会は議長を務める委員長が招集して年2回程度開催すること、本委員会の審議はこの総会において行うことを原則としており、議事については議事録を作成する（ISO/TC 68 国内委員会運営規約 <https://www.boj.or.jp/paym/iso/isotc68/data/kiyaku.pdf>）。

<sup>2</sup> 2019年12月までは「対面形式」で開催。その後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて2020年6月から2023年12月までの間は「オンライン形式」で開催。2024年6月、環境の変化を捉えて「ハイブリッド形式」での開催へ変更。2024年12月は「ハイブリッド形式」で開催した後、意見交換のための「懇親会」を開催。2025年12月も同様に「懇親会」を開催。

—— 武田局長は、「2025 年は中央銀行が深く関与する国際的な決済システムにとって、相互運用性の確保の観点から大きな節目の年となった。本年 11 月をもって、Swift ネットワークにおける ISO 20022 電文への移行期間が終了し、クロスボーダー送金やそれを扱う各国決済システムはこれから、リッチデータを活用した ISO 20022 という標準化された電文フォーマットを基盤とする新たな時代に歩みを進めていく。日本銀行が運営する日銀ネットにおいても、ISO 20022 電文のバージョンアップに対応するためのシステム開発を進め、11 月 25 日から稼働した。この先を見据えると、グローバルには、クロスボーダー送金の改善に向けた取組みや、決済システムの将来像の検討が進展する見込みである。我が国においても、伝統的な決済システムの利点を活かしながら、分散型台帳技術やそれを活用したトークン化などの新しい技術も上手に取り込みつつ、全体としてより良い通貨・決済システムを作っていく——通貨・決済システムを modernize（現代化）していく——ことが大切である。こうした状況の下で、標準化活動は益々大きな意義を持っていくと考えており、国際標準化活動を支える皆様のご知見と、地道で継続的な日々の活動に心より敬意を改めて表し、深く感謝申し上げるとともに、引き続きのご支援・ご協力をお願いしたい」と述べた。

## 1. 委員会審議

### 1-1. ISO/TC 68 の審議体制（2025 年 6 月総会以降の変更点、11 月 28 日時点）

### 1-2. ISO/TC 68 国際投票案件の審議および投票結果（2025 年 6 月総会以降の進捗分、11 月 28 日時点）

### 1-3. ISO/TC 68 国内委員会総会議事録（2025 年 6 月開催分）

事務局は、前回総会以降の ISO/TC 68 の審議体制の変更点と、この間にメール審議を実施した国際投票案件<sup>3</sup>の審議および投票結果の状況について説明を行った。また、日本銀行 HP 掲載済みの「前回総会議事録」についても確認を行った。

## 2. ISO/TC 68 の報告

---

<sup>3</sup> 国際規格の開発には、以下の 6 段階のプロセスがある\*。予備業務項目（PWI: Preliminary Work Item）→ 新業務項目提案（NP: New work item Proposal）→ 作業原案（WD: Working Draft）→ 委員会原案（CD: Committee Draft）→ 国際規格案（DIS: Draft International Standard）→ 国際規格（IS: International Standard）。  
※ 必要に応じて、DIS 投票時におけるコメントを踏まえた最終国際規格案（FDIS: Final Draft International Standard）の投票が実施され、その場合、7 段階のプロセスとなる。

## 2-1. SC2、2-2. SC8、2-3. SC9、2-4. TC68、2-5. ISO/IEC JTC 1/SC 42 JWG7 (SC 42 と TC 68 の Joint Working Group)、2-6. 質疑応答

最近の ISO/TC 68 の動向について、TC 68 および傘下の WG・MA・TG・AG、ISO/IEC JTC 1/SC 42 JWG7 の各国内作業部会の取り纏め役から、策定中のドラフトや規格について、概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告項目について説明がなされた後、討議が行われた。

## 3. ISO/TC 68 関連の報告

### 3-1. ISO 20022 RMG

ISO 規格「ISO 20022」(ISO/TC 68/SC 9 所管)の登録管理グループ (ISO 20022 RMG) および同傘下の SEG 等の動向について、田貝氏 (ISO 20022 RMG Convenor) と各 SEG 等の日本メンバーで取り纏めた内容に基づいて、田貝氏および日本メンバーから概要・経緯・足もとの進捗状況・今後の作業スケジュールの報告があり、その後討議が行われた。

## 4. リエゾンからの報告

### 4-1. ISO/TC 307 (Blockchain and Distributed Ledger Technologies)

ISO/TC 307 国内委員会の鈴木委員より、TC 307 の最近の動向について報告が行われた。

### 4-2. ISO/IEC JTC 1<sup>4</sup>/SC 17 (Cards and Security Devices for Personal Identification)

ISO/IEC JTC 1/SC 17 国内委員会の榊委員長より、SC 17 の最近の動向について報告が行われた。

### 4-3. ISO/IEC JTC 1/SC 27 (IT Security Techniques)

ISO/IEC JTC 1/SC 27 専門委員会の崎村委員長より、SC 27 の最近の動向について報告が行われた。

### 4-4. ISO/IEC JTC 1/SC 37 (Biometrics)

ISO/IEC JTC 1/SC 37 専門委員会の坂本委員長より、SC 37 の最近の動向について報告が行われた。

---

<sup>4</sup> ISO と IEC (International Electrotechnical Commission : 国際電気標準会議) との合同技術委員会。

## 5. 事務局からの連絡

### 5-1. 委員の異動、リエゾン交代（2025年6月総会以降の変更分、11月28日時点）

### 5-2. 次回総会開催予定

事務局は、前回総会以降のISO/TC 68のWG等新設・解散状況と委員の異動について説明を行った。また、次回総会開催予定については、ISO/TC 68国内委員会総会は2026年6月にハイブリッド形式での開催を見込んでいること、ISO/TC 68国際会合およびISO 20022 RMG国際会合は、2026年5月に開催される予定であることを連絡した。

## 6. 質疑等

総会全体を通して質疑が行われた。

### 閉会挨拶

ISO/TC 68国内委員会委員長の松本産業技術総合研究所・フェロー、横浜国立大学・上席特別教授が閉会挨拶を行った。

以 上